

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

偉人・賢人特集

いじん けんじん とくしゅう



活躍した年:

1909~1968年



活躍した分野:

実業家



ゆかりのある場所など:

- ・大原美術館
- ・倉敷紡績記念館
- ・倉敷考古館
- ・大原孫三郎
- ・旧大原家住宅
- ・児島虎次郎



おおはら そういちろう
大原 総一郎

新高総早 倉敷市
見梁社島 掛原口庄岡
市市市町 町市市町市



おおはらそういちろう めいじ ねん いま くらしきし おおはらまごさぶろう こ う
大原総一郎は明治42（1909）年、今の倉敷市に大原孫三郎の子として生まれました。

しょうわ ねん くらしきけんしよくかぶしきがいしゃ いま にゅうしゃ しょうわ
昭和7（1932）年、倉敷絹織株式会社（今のクラレ）に入社すると、昭和11（19

36）年から昭和13（1938）年にかけてヨーロッパ各国をめぐる、繊維工業の実情や文化活動への見聞を広めました。このとき訪れたドイツ・ローテンブルクの中世建造物群に深く感動し、帰国後に同級生の浦辺鎮太郎（営繕技師、後に建築家）に「倉敷を日本のロー

テンブルクにしよう」との町づくりの思いを語りました。戦後、総一郎のこの思いが浦辺の精神的な支えとなり、浦辺が設計した倉敷アイビスクエアや倉敷国際ホテルなどの建築物は、倉敷美観地区の骨格を担って現代にもその姿を残しています。

しょうわ ねん さい くらしきけんしよくかぶしきがいしゃ しゃちょう しゅうにん ねんご くらしきほう
昭和14（1939）年、29歳で倉敷絹織株式会社の社長に就任し、2年後には倉敷紡績の社長も兼務しました。戦後間もなく、両方とも辞任しましたが、昭和23（1948）年に、倉敷絹織社長に復帰すると純国産の合成繊維「ビニロン」の工業化を成功させ、日本繊維工業史に輝かしい業績を残しました。

ご くらしきちゅうおうびょういん おおはらびじゅつかん りじちよう つと どう まごさぶろう つづ きょうど
その後、倉敷中央病院や大原美術館の理事長を務めるなど、お父さんの孫三郎に続き郷土の発展にも大きく貢献しました。

そういちろう せかい くにに そうごりかい すず こころ なか せんそう
総一郎は、ユネスコが世界の国々の相互理解を進めることによって、心の中におこる戦争をしずめようとしたように、高梁川流域の市や町でも、流域の人々の相互理解を深めて、それぞれの特徴を生かした平和的発展を目指しました。ドイツにあるライン川が文化と産業を結びつけていることを参考に、高梁川を地域の人々を結びつけてきた「強いきずな」として、流域の市や町が手を取り合って、今までにない美しい幸福な協同社会にしていこうとしてつ

たかはしがわりゆういきれんめい
くれたのが「高梁川流域連盟」です。